

# 「凶悪犯罪」は増えていません

## テレビがあおる厳罰化

### 死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

2月1日の東京拘置所での1名を含んだ3名への死刑執行は、前回12月7日の執行から2ヵ月足らずであり、これは確認できる限り過去30年の中でも最短のことでした。

あいつぐ死刑の執行は、死刑囚の増加を背景としており、その理由を、一部のマスコミでは「凶悪犯罪の増加」の結果と報道しましたが、これはまったくの誤報です。

日本での殺人などのいわゆる「凶悪犯罪」は決して増加しているわけではありません。それは統計的にも明らかです。犯罪件数は変わらないのに、死刑や無期懲役刑などの重い判決が増加しているのです。しかし、「凶悪犯罪が増加している」と思い込んでいる人は少なくありません。誤報を流す記者もそう信じているのかもしれない。

誤まった事実をもとに死刑や厳罰化が合理化されてはなりません。

★★★

どうして「凶悪犯罪が増加している」と思い込むのでしょうか。森達也さんが、『創』という雑誌で次のような話を紹介しています。

デンマークに住んでいる人が久しぶりに日本に里帰りして、日本の治安がとても悪化している印象を持ったけれども、ちゃんと調べてみたら、そんな事実はない。どうしてそう思ったかを考えてみると、テレビの報道の仕方に問題があるのではないかと。

また、アメリカの友人が「断言できるけれど、〈体感治安〉は日本のほうがずっと悪い。だってテレビのニュースを見ていたら、朝から晩まで殺人事件の報道ばかりじゃないか」と話していたとのこと。

★★★

「凶悪犯罪」が、ニュースというよりはまるでドラマのような娯楽の一部として報道され続けていることが与えている影響の大きさに、私たちは危惧を持たざるをえません。それで植え付けられた印象が、一層の厳罰化を求め、死刑を求める声につながっているのですから。

★★★

山口県光市で起きた母子殺人事件は、一・二審での無期懲役判決が最高裁で差し戻され、広島高裁で再審理されています（4月22日に判決予定です）、この事件では多くのテレビ番組が被告のみならず、弁護人までも攻撃するキャンペーンを繰り広げました。

現在、BPO（放送倫理・番組向上機構）の放送倫理検証委員会で、この事件のテレビ報道（民放6局、18番組）について、不公正な報道がなかったかと調査が開始されています※。

どうぞ、テレビ番組は、眉につばをつけてご覧ください。

※「光市事件」報道を検証する会のホームページをご参照ください。

[http://www.jca.apc.org/hikarisijiken\\_houdou/](http://www.jca.apc.org/hikarisijiken_houdou/)